



# これからの子育て支援

## 男女共同参画推進に向けて

共働き率、女性の有職率、そして出生率も全国上位の福井県で、小さな子どもを持ちながら働く教員に、これからの子育て支援について伺いました。



司会進行  
小林愉美子

福井県教職員組合  
男女共同参画推進部担当

**Aさん**  
(小学校勤務)



2歳半の母。出産後、育休を1年8カ月取得しフルタイムで職場復帰。

—— 育児関連の制度について、私も周囲の勧めで育児休暇を取りましたが、皆さんは？

**Aさん** 母乳の間は自分で育てたかったのと、先輩の先生方から「子育ては今だけ」と言われて思い切って休みました。おかげで思い残すことなく職場に戻れました。夫の両親と同居しているので休まなくても何とか

関わったことは良かったと思います。うちも育休を使えなかったら、選択肢としては妻が仕事を辞めるか親と同居でした。妻が復帰してからは毎日が戦争で、朝子どもを起こして保育園に送るまで、夜の皿洗いと保育園の用意は私の仕事。それでも家を空けることが多く、妻には負担をかけています。

なつたかもしませんが、気持ち的に仕事に向き合えなかったと思います。

—— 子育てをめぐる現状についてはどうでしょうか？

**Bさん** 私は長く休んで体力面も不安だったので、育児短時間勤務制度を利用して何とかやっています。核家族のうえ夫の勤務が不規則なので、フルタイム復帰では倒れていたと思います。育児短時間勤務制度がなければ復帰そのものを諦めていたかも。

**Bさん** 私は保育園の預かり時間については、現状で十分だと思います。小さい子が遅くまで保育園にいるのはどうなのかと。それより親がもう少し早く帰ってきて、子どものそばに寄り添えるような社会になってほしいと思います。あと、子どもが病気で保育園に行けない時は、病児保育を利用してほしい。医師の指示のもと看護してもらえれば、安心して預けられます。ただ定員があることと、小学3年生までなので、そのあたりがもう少し改善されるといいと思います。

**Cさん**  
(中学校勤務)



4歳と2歳の父。小学校教員の妻は育休を3年間取得。妻の復帰と同時に自身は中学校に異動。

利用者がまだ県内で4人と少ないので、制度についての理解が深まるよう願っています。ただ、時間に比例して授業時間が減るわけではないので、仕事が午前中に凝縮されます。

—— 男性の立場からはいかがですか？

**Cさん** 父親として幼少期の育児に

—— そうなると、男性の関わり方が重要になりますね。

**Cさん** 男性も早く帰って家事を分担するのが一番だと思います。

**Aさん** うちの夫が単身赴任で帰ってくる子どもは積極的にしてくれず。土日の洗いものとかも「やろうか？」と。

**Bさん** いいですね。夫はなかなか家にはいないので、あまり手伝ってもらえませんが、でも夫が働いてくれるので、育休や育児短時間勤務が取れたと感謝しています。

**Aさん** 確かにうちも家のローンがあるので、経済的な面は考えましたね。

**Aさん** 大変な時は、他力本願で頼める人に頼む気持ちが大切です。制度を上手に使うのは自分や子どものためであり、後輩たちのためでもあると思っています。実例で示し取得率を上げていくことが必要だと思います。

**Cさん** 自分も教育費のことを考えると、3人目は躊躇します。

—— 県教組では「カムバックセミナー」を開催して、制度の説明や育児に関する情報交換もしています。優秀な人材に長く働いてもらうことは、福井の教育界のためでもあると考えています。

—— 私も経済的な面に加えて体力面も不安でした。結婚年齢とともに出産年齢も上がり、子どもの数が減り続けています。県も育児休暇に積極的な企業に奨励金を出したり、家族時間デー(毎月第3月曜日)を設定したりしています。今後はますます、男女共に働き方を考える必要があると思います。後輩たちへのアドバイスはありますか？

さらに、教育の現場だけではなく、すべての社会で、親として、職業人として、また一人の人間として充実感を感じられる「ワークライフバランス」がとれた生活が実現することを願っています。